

科目コード/科目名 (Course Code / Course Title)	DK131/現代社会論 (Contemporary Society Studies)		
テーマ/サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	社会秩序が壊れるのはいかなる場合か		
担当者名 (Instructor)	河合 恭平(KAWAI KYOHEI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	SOX2110	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

- ①現代社会に関する社会理論や概念への理解を身につけ、その内容を説明できる。
- ②社会理論や概念を用いて、現代社会の抱える諸問題を把握し、具体的事例とともにその問題の論理を構成できる。
- ③講義での学習内容を通じて自身の問題関心を形成し、それに基づき自身の研究を進めることができる。

At the end of the course, participants are expected to do as follows:

1. To explain the concepts on contemporary society which participants study in this course,
2. To analyze the logic of issues in contemporary society with the concepts, while taking specific cases,
3. To develop their research question and the research itself.

授業の内容(Course Contents)

社会に問題があると言うことは容易ですが、何が真に問題であるのか、あるいはそうでないのか、また、どれくらい問題であるのか、等々を把握することは容易ではありません。自分自身が現代社会の諸問題に巻き込まれていたり、諸問題が社会秩序の維持に対し致命的であったりするのはどういふときなのでしょう。

この講義では、学生がこうした問いに独自に回答を与えることができるために、現代社会に関するトピックごとに社会理論や社会学的な見方・考え方を学習しますが、特に、社会におけるそうした諸問題を把握するスキルを修得することを主たるテーマとしています。そして、身近な話題や事例から現代社会の理解へとつなげることで、専門知識の修得だけでなく、各受講生が自身の研究に取り組むための問題関心を養い、深めることを講義のねらいとしています。

It is difficult for us to answer "what is really the problem?", although easy to say "this is the problem" without enough thought and evidence. Therefore this course deals with sociological theory on topics in contemporary society, mainly with sociological thinking and concepts for analyzing social issues which could disrupts social order. It also encourage to develop research question, through studying contemporary society from problems at hand.

授業計画(Course Schedule)

1. 社会秩序があるという感覚をつかむ(イントロダクション)
授業内容:本講義の目的および概要の説明。また、講義全体の前提知識として、社会秩序があるという感覚を体感し、身につける。
2. 社会秩序の解体に関する近現代史の諸事例の概観
授業内容:私たちは歴史上、どのような社会秩序の壊滅的な経験をしてきたのか。主に、事例として第一次・第二次世界大戦時の歴史を社会学的な観点から学ぶ。
3. 人間の尊厳と人権
授業内容:社会秩序の解体に抗する理念として尊厳と人権の歴史的展開を学び、この概念の現代的な理解を深める。
4. 移民・難民・外国人
授業内容:移民、難民、外国人の違いとは何か。移民・難民と私たちは、どのような関係にあり、どのような問題に関わっているのか。
5. 国家とナショナリズム
授業内容:なぜ、自分は〇〇人であると言えるのか? 国家およびナショナリズムをめぐる争いや対立はなぜ起こってしまうのか?
6. 福祉国家論
授業内容:税金、保険料、権力、排除……。私たちの生活の助けになるはずの福祉国家はこれらとどのような関係にあり、今日ではどのような問題があるのか?
7. ナチスと全体主義
授業内容:これまでの講義で扱ってきた諸テーマと、社会秩序の解体の最たる事例としてのナチスの全体主義成立とは、どのような関係があるのか?(コース前半まとめ回)
8. 集団と組織
授業内容:組織の利点と欠点はどこにあるのか? フリーターと組織の昔と今を比較し、組織論を学ぶ。

9. 大衆社会論
授業内容:なぜ、周りと同じでない不安なときがあるのか？ 群衆・公衆・大衆の違いを明確にしながら大衆社会論について学習する。
10. 悪の凡庸さ
授業内容:ナチスによるユダヤ人虐殺への加担者は普通の人だったのか？ どのようにして虐殺の状況が生じたのか？ (8・9回を踏まえてのコース中盤まとめ回)
11. SNS・ビッグデータ・AIと科学社会学
授業内容:SNS や AI は何となく煩わしく、怖い？ ICT の基礎を学び、科学社会学の観点からその利点・欠点を見極める。
12. リスク社会論
授業内容:SNS や AI はなぜリスクがいっぱいなのか？ リスク社会論を学習し、その観点からビッグデータや AI 等の技術のリスクを考察する。
13. ICTとメディア論——SNS の問題事例を中心に
授業内容:なぜ SNS は炎上するのか？ メディア論の観点からインターネット上のコミュニケーションの特徴を学び、SNS 上の問題現象が生じてしまう原因をつきとめる。
14. 熟議
授業内容:話し合いは重要だと思うけど、面倒くさい？ 社会秩序の維持に向けて、私たちにできることとして熟議というあり方と、それに関する社会理論を学ぶ。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

予習:下記の参考文献や、手持ちの社会学のテキストのうち、各回の授業テーマに関係する章や項目を調べ、読んでくること。
復習:毎回配布する資料および板書を見直す。また、毎回の授業にて紹介する参考文献を適宜参照すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(60%) / リアクションペーパー(30%) / 授業内小課題(10%)

テキスト(Textbooks)

テキストは指定しない。毎回の授業で資料を配布する。

参考文献(Readings)

1. 長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志、2019、『社会学』新版、有斐閣 (ISBN:978-4641053892)
 2. 盛山和夫・金明秀・佐藤哲彦・難波功士編、2017、『社会学入門』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4623079117)
 3. 小川(西秋)葉子・是永論・太田邦史編、2020、『モビリティーズのまなざし——ジョン・アーリの思想と実践』、丸善出版 (ISBN:978-4621305652)
 4. 塩原良和、2017、『分断と対話の社会学——グローバル社会を生きるための想像力』、慶應義塾大学出版 (ISBN:978-4766424232)
 5. 佐藤成基、2014、『国家の社会学』、青弓社 (ISBN:978-4787233806)
 6. 辻泉・南田勝也・土橋臣吾編、2018、『メディア社会論』、有斐閣 (ISBN:978-4641150553)
- 各回テーマの参考文献詳細については、毎回の授業で紹介する。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

①授業形態について

- ・PowerPointを使用した講義形式で、映像資料なども適宜活用します。
- ・授業内で簡単な質問などに答えてもらいながら、授業を展開する回もあります。
- ・毎回の講義後半に、板書によるまとめを行うのでノートやルーズリーフを用意してください。
- ・毎回の講義の終わりに、その回の内容を振り返り、知識を定着させるために簡単な確認小テスト(○×形式)を行います。
- ・ご質問等は講義内に受け付けます。遠慮なくどうぞ。

②課題に対するフィードバック

- ・上記の確認小テストについては、その場で解答をお伝えします。
- ・リアクションペーパーについては、次の授業の冒頭 10分程度でいくつかを取り上げ応答します。

注意事項(Notice)